

協働のまちづくりの推進

地域を支える人づくり(仮称)狭山元気大学

出席者

(仮称)狭山元気大学開設準備委員会委員長 早稲田大学・武蔵野学院大学非常勤講師)
 試行コースコミュニケーションビジネス学科 コミュニティビジネス起業コース修了生
 試行コースボランティアリーダー学科 パパ・ママのお助け隊養成コース修了生
 試行コース協働サポーター学科 健康づくりサポーター養成コース受講生

鈴木 強氏
 江頭 誠治氏
 田村 佳代氏
 宮下ミサコ氏



狭山市総合振興計画後期基本計画のキーワード

「協働」の核となる(仮称)狭山元気大学

市長 明けましておめでとございませう。今年、第3次狭山市総合振興計画後期基本計画のスタートの年で、これから5年間は、協働、都市基盤整備、子育て支援という3つのキーワードが重要になってくると思います。この3点を大きな軸として、市民の皆さんが快適

な生活を送れるように頑張っています。

本日は、平成23年5月に本格実施を予定している(仮称)狭山元気大学について、これまでいろいろな角度から検討を重ねていただきました。開設備委員会の鈴木委員長と試行コースに参加された皆さんのお話を伺いたいと思います。

鈴木 以前から元気大学の取り組みは、ユニークな施策だなと感じていました。21年10月から開設準備委員会が発足することを知り、市民と行政のかかわり方や新しい公共に興味があり、委員に応募しました。現在は、委員長という大役を仰せつかっています。



鈴木 強氏

江頭 昭和45年から狭山市に住み、自然に恵まれた環境の中で、子どもを育てられたことが私の誇りです。

51年間のサラリーマン生活を終え、これからどう生活していけばいいんだろう、という現実にぶつかっていたとき、広報さやまで元気大学の受講生募集の記事を見ました。早速説明会に参加し、話を聞く中で、自分のこれから進む道が見えてくるのではないかと、期待が膨らみ、受講を決めました。

田村 私は、小学1年生と幼稚園の年少、1歳の3人の子育て中ですが、子どもの成長とともに、子育ての悩みも抱えていました。試行コースの案内に、「子育てに悩んでいる皆さん、保育の基礎を学びながら仲間づくりをしませんか」とあり、私も子どもと一緒に成長したいし、同じように感じている人たちとも成長し合えたらいいなと思って参加することにしました。宮下 私は、子どもを育てながら仕事や趣味などを楽しんでいます。狭山シニア・コミュニティ・カレッジを4年ほど受講し、修了後もさまざまな活動ができてよかったです。今回、元気大学の健康づくりサポーター養成コースのことを知り、体を動かすことや健康に関心があったので受講することにしました。



仲川狭山市長

平成23年度の本格実施へのステップ

試行コースに取り組んだ1年

市長 私は20年以上前の公民館長時代から、行政の大切な仕事は、リーダーを養成し、その人たちが生きがいを持って地域に帰っていきける社会をつくることではないかと考えていました。

市長になってからはその思いを一層強く持つようになりまして。これまでに、地区センターを整備し、まちづくり推進会議をつくらせて、各地域でさまざまな取り組みが行われています。

さらに、元気大学の開設を公約の柱に据え、狭山台地区に専用キヤンパスを置いて拠点とする構想を進めてきましたが、鈴木委員長をはじめ、開設準備委員会の皆さんには、本当にご苦労をいただき、いよいよ形ができて上がってきたなと思っています。



田村 佳代氏



江頭 誠治氏

鈴木 開設準備委員会は、25名の委員で構成され、組織運営部会と講座企画部会の2つの部会に分かれています。組織運営部会は、広報や組織づくりなど、講座企画部会は学科の内容を踏まえたコースの策定や、試行コースをよいものにしていくにはどうしたらいいかなどを話し合ってきました。

江頭 コミュニティビジネス起業コースは、比較的受講生の年齢が高かったように思います。修了時に、各自が考えているビジネスをパワーポイントを使って発表したんですが、とにかくパワーポイントというものを使ったことがない人たちが大半でした。それを1週間でもまとめて発表するのは大変な作業でしたが、お互いに助け合い、見事に全員が発表を行いました。



宮下 ミサコ氏

人間は、目標を高いところに持つ、精進していくことが大事だということを感じました。

修了後、すでにいくつかの動きが出ていて、このまま終わらせるのではなく、終わりが始まりであるという意識をみんなが共有しています。今後、市から出てくるであろうさまざまな要請に積極的に対応していき、こたえていかなければという意欲に燃えています。

市長 私も、皆さんの発表を聞いていましたが、すばらしかったですね。これが行政にリンクしていくと非常に発展性があるし、たとえば、学んだ成果を地区センターなどに持ち込んでPRしていけば、その知恵をかりてやってみようという人が出てくるかもしれない。元気大学の構想は間違っていないかったと確信しました。

田村 講座では、子育ての環境、狭山市の歴史、風土などの話が聞けて楽しかったです。また、子どもの

育ちをさまざまな角度から学ぶことができ、子育てに対する漠然とした不安について、自分が心配していたのは、こういうことだったんだと具体的に理解ができて、視野が広がった気がします。子育てブレイス奥富の視察では、スタッフの方の思いや心がけなどを聞き、本当に地域に支えられて育っているんだなと実感しました。

ただ、狭山市は子育て施設が多くて恵まれている分、おせん立ての整った環境になれて、受け身の子育てになっている方もいるんじゃないでしょうか。逆に、子育ては一人ではできないし、困ったときには助けをもらったり、助けたりすることができるはずなんですが、何か子育て中って、人の迷惑になっちゃいけないというか、人の手をかいることに抵抗があり、一人で抱え込みやすいということもあります。市長 少年サッカーがありますよね。子どもが入ると親が行く。すると今度は、その親の中で、素人なんだけれども、何人かがコーチのフォロー役になる。そういう形がスポーツ少年団の中ではでき上がっているんです。ですから、せつかくそこに行っているんだから、自分もちよつとフォローしようという気持ちになると、随分変わってくるんじゃないでしょうか。